

1 *C. DIFF* QUIK CHEK コンプリート と培養
2 検査との比較
3

4 ○瀬川俊介¹ 渡邊正治¹ 斉藤知子¹ 村田正太¹
5 宮部安規子¹ 野村文夫^{1,2} (¹千葉大学医学部附属
6 病院 ²千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学)

7
8 【目的】 *C. difficile* 関連下痢症 (CDAD) の検査は、
9 迅速法による糞便中毒素検出検査が行われている。
10 今回、*C. difficile* 抗原 (以下、GDH) と toxinA/B (以
11 下、毒素) を同時に検出可能な迅速キット *C. DIFF*
12 QUIK CHEK コンプリート (アリーア メディカル。以
13 下、コンプリート) の有用性について培養法と比較検
14 討した。【対象及び方法】 2011 年 7 月～10 月の期間
15 に、CDAD を疑い迅速検査及び培養検査を同時に実施
16 した 88 検体を対象とした。迅速法はコンプリートを
17 用い、糞便中の GDH と毒素を検出した。培養法は CCMA
18 培地 EX (日水製薬) を用い嫌気条件下で 48 時間培養
19 し、発育した *C. difficile* はコンプリートを用いて
20 毒素の産生能を確認した。【結果】 迅速法で、GDH・
21 毒素共に陰性の 69 件中、4 件は培養法で *C. difficile*
22 が発育し、その内 2 件は毒素陽性株であった。GDH
23 陽性・毒素陰性の 13 件は全て *C. difficile* の発育
24 が認められた。その内 6 件は毒素陽性株であった。
25 GDH・毒素共に陽性の 6 件は全て *C. difficile* が発育
26 し、毒素も陽性であった。【考察】 GDH・毒素共に陽
27 性の場合、*C. difficile*・毒素産生株が存在している
28 といえる。GDH 陽性・毒素陰性の場合、*C. difficile*
29 の存在は証明できるが、毒素産生株かどうかの判断
30 は難しい。このため、臨床側に報告する時は注意が
31 必要である。GDH・毒素共に陰性の場合、*C. difficile*
32 が存在する確率は低いといえる。本キットを用いた
33 迅速検査は、CDAD 診断のスクリーニング検査として
34 有用であり、さらに培養法による分離株からの毒素
35 検査を併用することがより確実な検査法であると考え
36 られた。